

千葉市災害対策本部 本部員会議 13回目

1 日時

令和元年9月20日（金）16時00分～

2 議事内容

（1）本部長からの指示事項

- ・ 市政だより（災害臨時号）が明日市民に届く。「こういった支援はあるのか？」などの相談があると思うので、各区は市民に寄り添った対応をすること。
- ・ メディアで、激甚災害の指定に向けた話や、国土交通大臣が「今回の災害の特殊性に対する特別な支援が必要と認識している」との報道がある。
- ・ 国は、自治体が支援したところを支援することを考えている。
- ・ 各所管の中で制度設計のヒアリングを行い、市の対応を検討すること。
- ・ 東電の千葉支社長よりご迷惑おかけしたと話があった。
- ・ 建設部には話したが、倒木を迅速に処理するために関西電力と和歌山県で協定を結び、安全性を電力会社が確認すれば、自治体でも対応できるようにしている事例がある。我々も今回のような災害があった際に早急に復旧できるよう、協定の締結を結んでほしい。千葉県で東電と協定を結んでもらうのが最善だが、政令市である千葉市で先に結んでも構わない。「次の災害が来ても大丈夫」というメッセージも込めて建設部を中心に考えること。
- ・ 長期かつ大規模な停電は千葉市が初である。電力、通信の強靱都市の宣言をするためにも各省庁へ支援をしてもらいたいと話をしてある。
- ・ 電力会社との協定など、「こういうことができる」というのがあれば、各部上げてもらいたい。（とりまとめは総合政策部か）

（2）各部からの報告

○消防部

（上空から撮影した動画を流しながら説明）

上空から見ると、まだブルーシートが少ない。

ビニールハウスの多くが飛ばされている。

今後、農作物の被害拡大が予想される。

新興住宅地でも大丈夫ではない。

平川ヘリポート裏も梨農家がやられている。

大宮地区など千葉市でも古い地区は建物が古いため、屋根が飛んでいる。

現在ではもっとブルーシートが増えていると思われる。

県内をみると、ソーラーパネルの被害が大きい。

ソーラーパネルの火災は、日光があると発電してしまうため厄介。

ヘリの風圧による苦情を避けるため、高く飛んでいるが、倒木も多い。

⇒今後、被災した際は、すぐにヘリで飛び、被災状況を確認すべき。（市長）

- ・ 広報活動については、高田町で引き続き実施。
- ・ ブルーシートは今日も2班10名体制で活動中。
- ・ 消防学校の洗濯機は、昨日2名利用あり。
- ・ 緑区と調整し、明日も広報活動を実施予定。
- ・ 県から要請があり、ヘリを飛ばして県内を1日かけて調査中。各市町村に提供する。

○都市部

- ・ 昨日はブルーシート養生18件、本日11件程度実施予定。(残り240件程度)
- ・ 週末、消防やボランティアがくるため活動を継続。
- ・ 天候が悪いという情報が入っているため、悪天候の際は前回同様の判断を行う。
⇒民間工務店を紹介して、民間で行うケースはあるのか？(市長)
⇒紹介はしているが、行っているかは不明。(都市部)
- ・ 住宅相談窓口での相談件数は500件に達する。
- ・ 空き住戸り災者用住宅は残り11戸、入居16戸。(鋸南町からの申し込みあり。)
- ・ URの物件は、県で調整中。
- ・ 再建支援については新たな支援策も含め、早急に検討する。
- ・ 週末の3連休で100名動員予定、職員の疲労や残業代の不足が心配。
- ・ 貸し出していた発電機が戻ってきた。必要なところには貸し出すが、運搬方法が確保できていない。(現在4台あり)

○建設部

- ・ ブルーシートに使われる土のうは、3800袋用意。
- ・ 中央美浜で土のうを作っている。区役所、市内の土のうステーションにも補充済み。
- ・ 倒木処理は進んできており、消防部との調整や区との情報共有などを行い、24箇所まで減った。
- ・ 市建設業協会への協力依頼は一旦終了し、今後は直営や単価契約でやっていく。
- ・ 全日本建設技術協会のOBがパトロールをしてくれている。パトロールの結果、もう少し対応が必要そうなおところがあったので、東電にも情報提供しながらやっていく。

○水道部

各区と連携しながら進めているプッシュ型給水は、26件73袋の実績。
引き続き区と連携しながら進めていく。

○保健福祉部

- ・ 銭湯の無料開放はしているが、利用者がだいぶ減ってきたため、本日で終了。
- ・ いきいきプラザは70人強利用。市外の利用者も増えてきた。今日、明日とやってみて、9月22日からの時間短縮を考える。

○環境部

- ・災害ごみの受け入れ件数が、18日が586件、19日が630件と増えている。
- ・来週から許可業者に協力してもらい、一部を委託する。
- ・24日から新港のオーバーホールが終わるため、今のところ北清掃工場のみでなんとか対応できそうではある。
- ・倒木関係用の新内陸処分場横の残土置き場は、今日は公園が搬入。来週以降建設部のものが入ってくる。
- ・対応について相談するものがある。

(事例) 災害ごみの収集にいくが、パッカー車に入らないもの(小さい小屋など)がある。基本的には排出者に小さくしてもらいたいとは言っているが、高齢であったり、解体を頼む先が無かったりするなど対応に困っている。環境事務所もチェーンソーなどがいないため、対応できない。収集だけに専念している状況。企業ボランティアを募っているが、ごみを細分化する業者を募るか考えている。

⇒広報看板の倒壊が多い。対応は解体業者であるため、すぐに手は回らないかもしれない(都市部)

⇒都市部と環境部中心に整理してほしい(市長)

○経済農政部

- ・宿泊関係

千葉サイクル会館は昨日21名使用、13日から1週間で123人使用

停電の長期化に伴い、緑区に設置した宿泊施設の提供の窓口については、昨日緑区と話し、経済部の職員は撤退したが、今後も緑区と協力しながら継続していきたい。

- ・昨日から今日まで3件問い合わせがあったが、入所には至っていない。

農村部で6人世帯(祖父母、父母、子2人)があり、祖父母は家に残り、父母は祖父母の世話をするため、子供だけ入れないかという事例があったが、最終的には入所が見送られた。

⇒サイクル会館の利用については、東京電力の総支社長より感謝の言葉があった。柔軟に利用できる宿泊施設があるということは非常に大きいということであった。疲れている作業員をしっかりとしたところで休ませるために、サイクル会館を利用しているという運用をしているようだ。サイクル会館と東京電力のニーズがうまく合致して良かったと思う。(市長)

○教育部

- ・給食

小学校残り1校も今日から再開できた。

牛乳は26日再開目指している

- ・小中学校5校の学校施設の開放

18日以降利用者いないため、本日17時に閉鎖する。

- ・文部科学大臣の被災地訪問の際に千葉県が県内の要望をまとめて提出する。

○財政部

- ・屋根の一部損壊の件

追加議案 24 日か 25 日に閉めて、追加議案として補正予算を組む

鶴岡市の制度をベースに作っていく。鶴岡市では 30 万円以上の工事費用がかかった被害を対象に、工事費の 20%補助をし、補助費の上限額は 40 万円（工事額 200 万が頭打ち）となり、国費で 1/2 賄える。

⇒件数はそれほどでないだろう。

専決処分が良いのではないか？

追加議案の正副議長代表者会議が予定されているから、そのときに、専決処分にならざるを得ないが、様々な事情を考慮していることを説明し、相談のうえで専決処分にさせていただきたいとするしかないだろう。制度を突貫で作るよりは。（市長）

⇒専決処分、あるいは予備費ということが考えられるが、予備費では発信力が弱いと考えられるので、専決処分の方が良いと思う（財政部）

⇒寄付金を被災者にどのように配布するかが大事である。各区のり災証明関係の対応が、落ち着いてから、寄付金について周知するという流れだと思うが、各区と相談してやっていこう。（市長）

○総務部

避難所付近の治安が悪くなる可能性がある。

二次被害といえる市役所や東京電力の職員を名乗った振り込め詐欺が増えてきているため、県警の生活安全部と相談してきた。

市内から 80 件程度の通報が来ている。

市民局の HP には載っているが、防災無線で放送するなど、広報を強化したほうが良い。県警の方でも強化してもらえとのこと。

⇒yahoo 防災アプリや、安全安心メールは出しているか（市長）

⇒出している（危機管理監）

⇒高齢者が騙されやすいと考えられるから、敬老会にも協力してもらって、注意啓発を出していけばいい。保健福祉局と協力してやってほしい。（市長）

○緑区

・まだ停電のピンポイントの世帯があるので、停電対応とり災証明対応を同時進行でやっていく。

・り災証明の発行、現在 500 件登録ある。どうやれば効率的で正確に管理できるか、また、被害認定調査件数は、昨日が 7 件、今日が 11 件だったが、調査に行くといろんな話があっ

たりして、1件あたり時間がかかる場合があるため、税の経験者の方や業務改革推進課などにアドバイスをもらいながら、今進め方を検討している。まだ、り災証明は発行していないが、進め方が決まったら、発行対応を進めていく。

・り災証明申請の受付は、区役所、3連休は土気公民館でやるが、交通手段が無いお年寄りの被害もあるため、敬老会や民生委員や各局のチャンネルを使って、り災証明の申請書の受け渡しをご協力願いたい。

○若葉区

保健福祉センターの保健師がプッシュ型支援で御殿町を訪問した際の模様がNHKで放映された。東電HPでは停電解消地域になっている。

プッシュ型支援に保健師を含め2組行かせている。これに本日は地域振興課職員を加えて実施し、1件ずつ「消し込んで」いく。

り災証明については、昨日61件受理し、合計310件受理している。

避難所については、若松公民館と千城台公民館の2箇所を開設しているが、若松公民館に避難していた八街市住民1世帯3人の方は自宅が通電したため本日午後には退去した。そのため、本日17時をもって若松公民館は閉鎖する。千城台公民館については避難者が22日に市営住宅に入居することとなっているため、22日の17時をもって閉鎖する予定である。

○花見川区

・局所的な停電

犢橋町1件と、本日新たに把握した柏井町1件の計2件となっている。

いずれも区役所職員等により、水・クラッカー等支援物資を持参しつつ、被災者への声掛け、保健師による健康相談を実施している。

特に犢橋町の被災者は、町内会長からも停電から10日間経過しているため、精神的な疲労が濃くなっている。花見川消防署署員の方の協力を受けて、午前午後に見回りを依頼し、併せて通電火災に対する注意について啓発をし、引き続き声掛けを行っている。

今後も継続して東京電力カスタマーセンターへの復旧依頼と被災者への情報発信を行っている。

・り災証明対応

本日15時現在で、128件を受理している。明日からの3日間も区役所で受付を行うが、屋根及びカーポートの破損等の情報が花見川区の北部、特に犢橋地区、こてはし台地区の方が多いことから、市民の利便性等も考慮し、本日から4つの市民センターの開所時間内で申請書の受理ができるよう弾力的な対応を図っている。

・区内のボランティアニーズの把握

花見川区社会福祉協議会事務所と連携して行っている。

18日現在6件で、主な内容は、屋根のアンテナ修理、竹林の竹の撤去、敷地内の小屋の破損した屋根の撤去など現時点では専門業者等を紹介している。

○事務局

停電状況について、若葉区の富田町、中野町、緑区は復旧ということになっているが、この情報はあくまでも高圧線という部分の状況であって、この下にある低圧線、引込線というのは、未だ解消されていないところがある。

今後は通報等により把握した個別の停電状況を東京電力の顧客センターと連携し、町名までの情報をHPに載せていく。

本部の体制の縮小について、各部門に通知を出して、3連休については、規模を縮小し、各対策部の連絡員については、夜間の待機はなしとし、日中は対応してもらおうという体制で乗り切りたい。

今後の予定は、次回の災害対策本部は9月22日9:00から開催する予定となっている。

○建設部

千城台公民館22日で閉鎖する予定ということだが、がけの対応がある。一部のり面の崩れが怖いと申し出ている近隣の方は、昼間は自宅で過ごしていて、夜に雨になると車中泊をしているため、毎日ケアが必要。

今週末も雨が降る可能性があるため、23日は下水道職員を出して千城台公民館を借りるよう調整している。

もし、避難したいという申し出があれば、対応できるような体制をとっている。

以上